APPLE WATCH受け入れ

ウォッチにも、付箋ではなくレコードを。

ケーブル接続によるApple Watchの受け入れと入庫を、現場のほかの作業と同じワークフローの中で実施します。ユニットは識別され、処理するすべてのスマートフォン、タブレット、Macと並んでControl Centerに登録されます。

ケーブル経由の受け入れ

S1〜S6

Series 1からSeries 6まで

ケーブル経由で識別し、入庫レコードを作成して在庫に計上します。

SERIES 7以降

S7+

開発済みで有効化可能

必要な数量があればご相談ください。

ワークフロー

自動

自動化された受け入れワークフロー

各ユニットの処理内容は受け入れプログラムが決定し、オペレーターは接続するだけです。

CONTROL CENTER

1

ユニットごとのレコード

識別と入庫のレコードを、現場のほかのデバイスと同じControl Centerに記録します。

対象読者
デバイス処理事業者の運用・IT責任者

デバイス
Apple Watch · Series 1–6をケーブル経由

ウェブ
assetscience.com

概要一覧

購入検討者が必ず尋ねる8つの質問。

これは受け入れと入庫のためのモジュールであり、フル機能の診断スイートではありません。ウォッチを識別し、レコードを作成します。できないことは、できないと明記します。

証明書 ● このモジュールでは発行しません

受け入れでは消去を行わないため、消去証明書は発行しません。証拠となるのは **Control Centerの入庫レコード** で、ユニットの識別情報と処理内容を含み、Device Historyから参照できます。

ADISA認証 ● 該当なし

ADISA保証レベル4はPro-DiagnosticsとMacRestoreの消去に適用されます。 **消去に関する主張は一切行いません** （Apple Watch受け入れ）。

消去の種類 ● なし

このモジュールでは消去を行いません。レコードには実施内容を記載します： **識別と入庫**.

ガイド付きユーザーテスト ● いいえ

受け入れにオペレーター向けのガイド付きテストはありません。オペレーターは **ウォッチをケーブルで接続する** だけで、あとはワークフローが処理します。

テストの種類 ● なし

受け入れはユニットを識別して在庫に計上します。機能テストは実行しません。これは **診断スイートではありません**.

主な機能 ● 4

ケーブル経由でSeries 1–6を受け入れ。Series 7以降は開発済みで有効化可能。 **自動化された受け入れワークフロー。** Control Centerでの識別・入庫レコード。

対応プラットフォーム ● Apple Watch

Apple Watch **Series 1からSeries 6まで、ケーブル接続。**Series 7以降は開発済みで有効化可能です。レコードは、プラットフォームのほかの機能と同じWebポータルであるControl Centerに保存されます。

データ分析とAPI ● REST · CSV

入庫レコードはControl Centerに保存され、ユニットごとの履歴とレポートを備え、ほかのレコードと同様に **REST APIとCSVエクスポート** で取り出せます。

1

接続

受け入れステーションでウォッチをケーブル接続します。

2

識別

受け入れワークフローがユニットを識別し、その内容を記録します。

3

ファイル

入庫レコードが、現場のほかのデバイスと同じControl Centerに書き込まれます。

4

引き渡し

レコードはレポート、エクスポート、またはAPI経由で取得できます。

このモジュールではないもの。 ウォッチのテストも消去も行わず、証明書も発行しません。クリップボードの1行ではなく、スマートフォンと同じく識別・記録・レポート可能な入庫レコードをウォッチに与えます。

機能概要

Apple Watchはスマートフォンと一緒に入ってきます。同じように受け入れるべきです。

ウォッチはスマートフォンと同じ下取り・買取の流れで入荷しますが、作業台のソフトウェアが対応していないため、たいてい紙で処理されます。ケーブル経由の受け入れはユニットを識別し、ほかのすべてのデバイスと並べてControl Centerに入庫レコードを作成します。

APPLE WATCH	ステータス	モジュールの動作
Series 1からSeries 6まで	ケーブル経由の受け入れ	ウォッチをケーブル接続して識別し、入庫レコードをControl Centerに作成します。
Series 7以降	開発済みで有効化可能	Series 6より先への対応は開発済みで有効化可能です。必要な数量があればご相談ください。

ケーブル経由の受け入れ

ステーションでユニットを識別します。

Series 1からSeries 6まではケーブル接続で受け入れます。ステーションがユニットを読み取って内容を記録するため、入庫レコードはラベルの手入力ではなくデバイスから作成されます。

自動化された受け入れワークフロー

プログラムが決め、オペレーターは接続する。

Control Centerの受け入れプログラムがデバイスを在庫に計上し、各ユニットの内容を記録し、入庫ラベルを印刷します。ウォッチもプログラム内のほかのデバイスと同じように処理されます。

入庫レコード

ユニットごとに1件、現場のほかのデバイスと同じ場所に。

識別と入庫のレコードはControl Centerに書き込まれます。レポートでは、同じ日に処理したスマートフォン、タブレット、Macの隣にIntakeとして表示されます。

正直な適用範囲

受け入れと入庫であり、診断スイートではありません。

このモジュールはウォッチを識別してレコードを作成します。ウォッチの機能テストは実行せず、消去も行わず、消去証明書も発行しません。Apple Watchでそれらが必要な検討者には、トライアルの後ではなく前に、はっきりとお伝えすべきです。

ケーブル経由が重要な理由。 レコードは、接続されたユニットからステーションが読み取った内容に基づいて作成されます。入庫レコードのどの項目も、オペレーターがケース裏面のモデル名やシリアル番号を書き写すことに依存しません。

自動化された受け入れワークフロー

ウィザードで受け入れプログラムを作成し、ウォッチを流します。

Control CenterのConfiguration Wizardは、平易な言葉で書いた目的を実行可能なプログラムに変換します。適切なサービスを適切な順序で並べ、ラベルと対象サイトを設定します。受け入れもその目的の1つです。

目的として **Receiving** を選ぶと、デバイスを在庫に計上し、各ユニットの内容を記録し、入庫ラベルを印刷するプログラムが作成されます。通過したすべてのユニットはレポートに **Intake**として表示されます。同じプログラムが、ウォッチも一緒に入ってきたスマートフォンも処理します。

- **設定ではなく、目的を。** ウィザードは達成したいことを尋ねてサービスを組み立てます。スイートを手作業で構築する必要はありません。
- **実行場所。** プログラムは指定した施設とデプロイメントに割り当てられるため、ある拠点の受け入れラインを変更してもほかの拠点には影響しません。
- **カスタムフィールド。** バッチ識別子など、運用上必要なフィールドをウィザードで入庫レコードに追加し、ログイン時または処理終了時に取得します。
- **入庫時のラベル。** ラベル印刷が有効な場合、入庫ラベルはプログラムの一部として印刷されます。

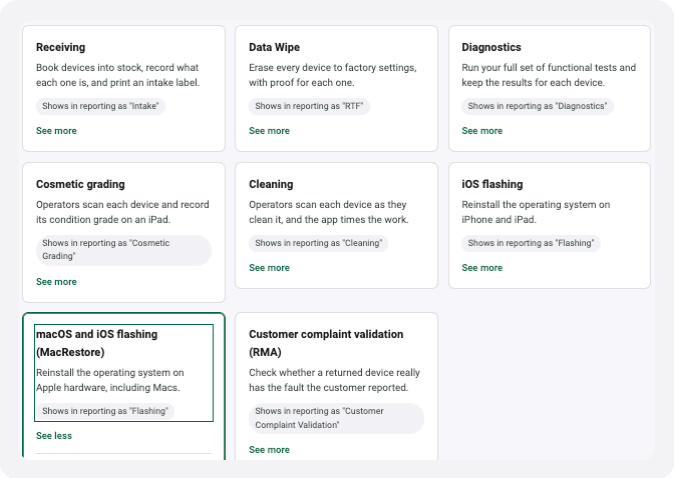


図1 Control Center → Configuration Wizard → Goal。Receivingカード：デバイスを在庫に計上し、各ユニットの内容を記録し、入庫ラベルを印刷。レポートにはIntakeとして表示。

入庫レコード

DEVICE HISTORY

Control Center内のユニット専用ページ。

各入庫実行はデバイス履歴上のセッションとして記録されます。ユニットから読み取った識別子、プロセス名、チーム、シフト、オペレーター、開始・終了時刻、取得したカスタムフィールドが含まれます。

REPORTING

Intakeとして、ほかの処理と並べて記録。

入庫実行はその日のほかの処理実行と一緒にReportingに表示され、プロセス名とオペレーターが付き、ほかの実行と同じCSVまたはJSONでエクスポートされます。

1つの現場、1つのレコードモデル。 ウォッチ専用のデータベースはありません。Apple Watchの入庫レコードはスマートフォンと同じ構造、同じ履歴ページ、同じエクスポートを持つため、月末に2つのシステムを突き合わせる必要はありません。

SKUグループの扱い

ウォッチには専用のSKUグループと、専用の必須属性があります。

Control CenterのSKU Groupsは、デバイスタイプごとに、SKUが必ず持つべき属性と持つことができる属性を定義します。ウォッチは画面の小さいスマートフォンではありません。グループ定義がそれを示します。

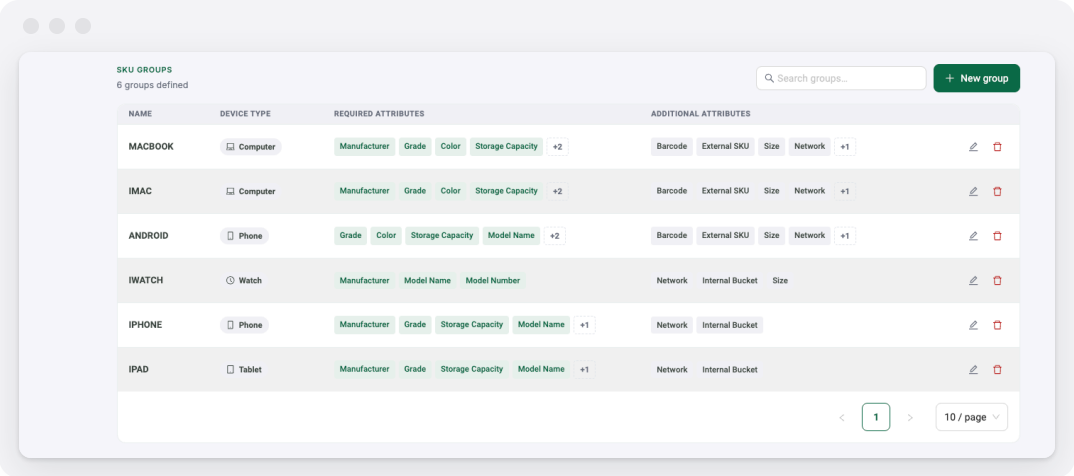


図2　Control Center → SKU Groups。デバイスタイプごとに1つ、計6グループを定義。IWATCHグループ（デバイスタイプWatch）はManufacturer、Model Name、Model Numberを必須とし、Network、Internal Bucket、Sizeを任意で保持できます。

必須属性

Manufacturer、Model Name、Model Number。

ウォッチグループでは、ユニットを識別する3つの属性が必須です。スマートフォンのグループで必須となるグレード、色、ストレージ容量は、ウォッチグループでは必須ではありません。

追加属性

Network、Internal Bucket、Size。

SKUが任意で保持できる属性です。ケースサイズや、在庫を振り分けるために運用で使う内部バケットが含まれます。

SKU MANAGER

インポート、エクスポート、テンプレート。

SKUはSKU Managerで一覧表示、インポート、エクスポートでき、一括登録用のテンプレートも用意されているため、ウォッチのカタログもスマートフォンのカタログと同じ方法で管理できます。

レポートとAPIによる引き渡し

入庫レコードは、ほかのレコードと同じ方法でControl Centerから取り出せます。 **Reporting** は処理実行を、選択可能な列とともにCSVまたはJSONでエクスポートし、ダウンロードまたはメールで受け取れます。レポートは週次または月次でスケジュール設定できます。 **Back-Office API** は同じレコードをRESTで公開します。ライセンスキーはテナント、施設、または個別のデプロイメント単位でスコープを設定できます。

- **CSVとExcelのエクスポート** はすべてのプランで利用可能。47列から選択でき、CSVまたはJSON。
- **スケジュール設定されたレポート**は、指定した頻度でメール送信されます。
- **統一されたRESTエンドポイント** を各サービスで提供し、ベアラートークンで認証します。
- **自動化フロー** は、レコード到着時に書き込み専用シークレットでWebサービスを呼び出せます。

適用範囲を率直に

Series 1からSeries 6まではケーブル経由で受け入れます。Series 7以降は開発済みで有効化可能です。

これが主張のすべてです。このモジュールがApple Watchに対してテスト、消去、証明書を含意することはありません。得られるのは、クリップボードでは得られなかったもの、つまりウォッチごとの識別・記録・レポート可能なレコードを、現場のほかのデバイスと同じControl Centerで扱えることです。

ウォッチの取扱数量についてご相談ください。

Apple Watch受け入れはセルフサービスではなく、当社とともに設定します。まずはプラットフォームの無料トライアルでControl Center、受け入れプログラム、レポートを実機でご確認いただき、そのうえでウォッチの流入状況をお聞かせください。

無料トライアル
onboarding.assetscience.com

公開証明書
verified.assetscience.com/verify

ウェブ
assetscience.com

© 2026 Asset Science. スクリーンショットは製品ビルドのものです。表示されているデバイス識別子、オペレーター名、顧客データは架空のものです。製品名および商標は各所有者に帰属します。